

SHIN CLUB 179

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「R4 BUILDING」 撮影：ナカサアンドパートナーズ

六本木

写真はこのたび六本木に建ち上がった、小さなオフィスビルです。設計は、来日されて11年目となるドイツ人のフロリアン・ブッシュさんです。地下1階、地上3階の屋上には、デッキをほどこしたルーフガーデンが用意され、昼休みや休憩時間を過ごす人々の憩いの場となりそうです。

ブッシュさんに竣工した建物についてお話を聞いた際に「日本に来て改めて自分の国の文化に気づかされたこともありました。外国には行ってみるものですね」という話も伺いました。

確かに海外に出ると、改めて日本の良さに気が付くことがあります。もちろん、反対に私たちがいかに日本の「常識」と呼ばれるものに縛られているかもわかります。4、50年前までは、そんなに便利なものに囲まれていなかったのに、今では世界でも類を見ないほど、清潔で快適な暮らしをすることができる日本。海外に行くと、その国の不便さにちょっとがっかりしたり、文句を言ったりする人もいます。でも、便利さに乗っかって、毎日効率よく仕事をこなしていくと、心も身体も疲れ果て、そのうち、休息や癒しを必要としていることに気が付きます。

日本には、自然と一体になった、環境にもいい穏やかな暮らし方がありました。木の床や畳、土間や軒など、自然を活かした温熱環境の家で、四季折々のその土地ならではの食物を食す文化です。現代の都市生活者には、それは難しいかもしれませんが、その心地よさの記憶を継承していくことはできます。

先日、田舎の山の中にたった3室だけというリゾートが紹介されていました。1泊20万円のその宿は、宿泊者が互に見えないような距離に、開放的な寝室とリビングがそれぞれ1棟ずつ用意され、富裕層の予約が後

を絶たないそうです。何も見えない、聞こえない、露天風呂に入って、星空を眺める。贅沢な景色が一番の魅力です。

経営者は、これまでの「観光はコピー文化」と言いました。どこの旅館に行っても、刺身が出てきて、カラオケ、卓球などの娯楽施設。そんな、よそと同じものをやっているのは、ダメだということでした。先見の明があったのでしよう。単なる娯楽ではなく、誰が何を要求しているかを的確に見極めて、山づくりに取り掛かったのは、17、8年前から。自然を資源としたビジネスは、スパンも長いのですね。

スパンの長さで言えば、高層ビルの立ち並ぶこの六本木の再開発も負けていないかもしれません。もともと外国人の居住者が多く、クリエイターなど感性の鋭い人たちが遊んでいた街でしたが、2、30年前から街のあちらこちらが汚く、マンションやビルに不法侵入する人が後を絶たないため、物騒だというのが地元の方たちの悩みでした。所有者の権利が複雑なビルも少なくないでしょう。大きな敷地でとらえて、街を再編成し、新たな公共空間も用意して、また訪れる人を呼び込む計画が作られ、文化、アートの街として美術館も建ちました。

でもすべてが高層ビルになってしまうわけではありません。表通りから入った住宅街には、外国の大使館やしゃれたレストランがあり、ゆとりのある高級マンションも多いのです。それも街の味わいの一つです。小さくても一つ一つの建物が魅力あるものになれば、それもまた、街に暮らす人々の活力につながることでしょう。高層ビルの機能的なオフィスではなく、地面の近くで自然を感じながら、仕事に取り組むのも悪くありません。

R4 BUILDING



多様な開口部で、変化のある内部空間を生み出したオフィスビル

オフィスとは、都心で最も社会的、経済的な概念を体現している建築物である。1914年、ル・コルビジエがドミノシステムを提案し、それまで石でできていた建築物に革命を起こして、モダニズム建築の流れが生まれた。そして、この六本木界隈では、ミッドタウンや六本木ヒルズといった、高層のオフィスビルが、その均質な繰り返しによる建築を展開している。

それに対して、この建物は約140㎡の敷地で六本木という一等地ではあるが、細い路地に面し、隣接する高さ40mのビル、裏側には小さな墓地があり、近くの公園も直接見えるわけではない、厳しい条件にある。ここで、これまでのオフィスビルのような均質な空間を作り出し、果たしてフロアで働く人々の作業効率に良い影響が与えられるだろうか。

しかし、この5-6mスパンというスケールであえて壁構造としたらどうだろう。大きくひとつながりの空間を生み出し、建物全体を外被で包み込んだようなファサードとし、開口部の大きさ、位置や照明に多様性を持たせることで、フロアの明確な定義は消えて、そこにいろいろな場所が生まれる。人々は、思い思いの場所を選び、周辺環境に対しても、あえて見たくないものは見ないようにして、見たい場所を選べばいい。逆に、外部からも、中で働く人々の動きを垣間見ることができる。フロアはどの階がどこかわからないが、建物がひとつの塊として周辺に働きかける。

この建物は、ITの進化により生まれた、ubiquitous homogeneity（いつでもどこでも）が意味する「もはや不可能はない」という均質性よりも、「多くの可能性を選び出す」ことのできるオフィスとして、より人間らしく働ける環境を提示している。

(フロリアン・ブッシュ氏 談)



①デッキと植栽を施したルーフガーデン②2階フロア。緩やかな「くの字」に曲がった空間には、様々なレベルの窓が用意されている
③正面ファサード（昼景）④同じくファサード（夜景）⑤3階エレベーターホールの方向を臨む。右側の奥が厨房やトイレ（男女別）になっている。南側は敷地が下がっており、小さな墓地があるため、開口部はすりガラスにしている⑥3階北西側のコーナーは、「天窗」がプライベートな空をもたらしている⑦壁面の様々な大きさの開口部。建物奥の南側の開口部と手前の開口部が見せる、働く人のシルエットが街の景色になる⑧たくさんのビルが並ぶ六本木

所在地：港区六本木 4-1-25
構造：RC造
規模：地下1階、地上3階、
roof garden
用途：事務所
設計：フロリアンブッシュ建築設計事務所
施工担当：綿貫
竣工：2014年12月
撮影：ナカサンドパートナーズ

Florian Busch



フロリアン・ブッシュ氏 FBA 事務所にて 撮影：アック東京

今月は、「R4 BUILDING」の設計者、フロリアン・ブッシュ氏にご登場いただきます。ブッシュ氏は、ドイツ生まれ。この2月で来日11年目です。

—日本には、なぜ惹かれたのですか。

ブッシュ：初めて来たのは、20年前。20代前半で、主に関西方面を回りましたね。その後2、3年して、東北大学に1997年から1年間留学し、ロンドンなども住んでいましたが、11年前から東京です。学校は推薦があったので来ましたが、とにかく日本の古い文化に触れたくて日本中を旅しました。山にも神がいるとか、そういう発想はヨーロッパではないでしょう。ずいぶん奥深いところも尋ねましたね。

—それから、伊東豊雄さんの事務所に入られています。

ブッシュ：ゲントのコンベから（ゲント市文化フォーラム）ですね。パルセロナのトレスフィラ、台中のメトロポリタンオペラハウス、シンガポールの超高層オフィスなどを担当しました。

伊東氏の事務所では、アルゴリズム（＝コンピュータにより問題を解く計算手順。これを用いて、従来では考えられなかった形態や構造を持つ建築作品が生まれるようになった）を操作して建築的な解決方法を見出していく技術で貢献。単にランダムで複雑な形のものを作る、というのではなく、そこには建築と環境や自然との新しい形のためのルールがあるとのことである。

ブッシュ：当然のことですが、僕は、海外の方の仕事が多かったですね。だから感じているのですが、日本の建設業界はすごく閉鎖的です。大手ばかりが仕事をとり、若手建築家の仕事は取らない。これは自分の首を絞めているようなものです。細かい動きはできないし、限られた方向でしか進めない、それは本当に悲しいことです。

日本の文化自体はとても魅力的です。日本に興味があったのは、ある意味、日本の独特な「儚さ」もあります。例えば、バラの美しさを考えてみると、ヨーロッパでは、絶対に一番華やかに咲き誇っているときを最も美しいというでしょう。でも日本では、花が落ちる直前のものにも、美しさを見出す文化がある。建物も強固なものではなく、洋服を脱ぎ捨てるように軽やかに使い、また直して使う。

ドイツなどヨーロッパでは、建物は石で作るし、昔作った教会をリノベ

ションする場合も、今ではどうやって作るのか、誰もわからない。技術が継承されていないのです。

—日本の木造の力はすごいですね。伊勢神宮の遷宮も、技術継承が目的の一つです。でも今、日本人が家を建てようとするともるっきり昔の木造というわけにはいかない時代です。「ちょっといい家を持ちたい」というときに、高層マンションを買うくらいしか思いつかないのは、寂しいですね。

ブッシュ：都心は、土地が高いですからね。昔のように家があって庭があって、というわけにはいかない。空間の問題は厳しいですが、田舎には結構いらっしゃいますよ。先日ナビゲーターを務めたテレビ番組で、とてもきれいな茅葺の屋根の家を作られた方がいました。20年経ったら、葺き替え作業があるんです。内部は昔の日本の空間、つまり、畳や縁側、床の生活、そういったものを大事にされているのです。空気もいいし、健康的でしょう。日本人は心の中に快適と感じられるものを、もっと大事にしていてもいいのではないのでしょうか。集合住宅も、そういうものは入れようとしなくて、何か浅いキャッチフレーズで売っている一僕は心が痛みますね。

—現在は、どのようなお仕事をされていますか。

ブッシュ：設計も行いますが、他に研究も行っています。ドイツの会社とコラボして、自然の繊維を使った断熱材のサンドイッチパネルを作りました。東北震災の被災地支援である仮設住宅ためのプロポーザルに参加しました。スチールの仮設住宅よりましだと思いましたが、ダメでした。認定が厳しい。ドイツでそのプロトタイプのスペースを3つ作りましたが、イベントにはメルケル首相も見えませんでしたよ。

—建築について、考えていらっしゃることがあれば教えてください。

ブッシュ：そうですね。建築は環境だと考えています。要するに、環境の中に建物を置いているのではなく、建築は環境を創っていく、環境になっていくと思います。そう言う意味で、「不動」ではないとも言えるでしょう。

一方、空間は動きの変動でしか現れてこない。建築は常にインタラクティブ（双方向）な関係でできています。長いスパンで見ると、決して不動のものではなく、環境の流れの中で実在するものなのです。建築の真髄は、昔から変わらなく、人間と同じように自然の一部であると考えています。

—本日はどうもありがとうございました。

「建築は多くの分野の相互インタラクションのプロセスによりできるものです」

フロリアン・ブッシュ

1973年 ミュンヘン、ドイツに生まれる
1994年～2003年 パウハウス大学、東北大学、ロンドン AA School of Architecture にて建築を学ぶ
2004年～2008年 伊東豊雄建築設計事務所所属
2009年 FLORIAN BUSCH ARCHITECTS 設立

東京を拠点とし、建築界において数十年に亘る経験と信頼を築き上げた数多くの技術家とのネットワークのなかで設計を追求している。



斜面の家（北海道）



内にひらく家（千葉）

「平成 27 年度 辰 安全衛生大会を開催」 1 月 26 日 於：渋谷商工会館

1 月 26 日、恒例の「安全衛生大会」が開催されました。今年は提携会社 78 社 81 名と株式会社辰社員 49 名、池田建設株式会社の高橋明取締役 工事本部長（ほか 2 名様）が来賓として参加されました。第 1 部では 26 年度活動報告、会計報告、27 年度活動計画案が報告され、最も安全意識が高いと認められた現場に贈られる「安全作業所賞」は写真の 3 現場が選出されました。また毎月の安全標語の入賞者を発表、最優秀賞作品が安全スローガンとして、全体の年間目標となります。工事部 讃井次長による「安全宣言」で第 1 部は閉会。第 2 部の会社報告では、「優良協力業者賞」の表彰、営業部と工事部の現況報告を行いました。

今年は、第 3 部に、特別講演会を企画しました。以前 ShinClub でもご紹介した、麻布私塾会の塾長渡邊春吉氏をお迎えして、『知られざる硫黄島戦からの教訓』と題して、昭和 20 年、大本営の作成に異を唱えながら、小笠原兵団長として幕引き戦略を行った、栗林忠道陸軍中將軍のリーダーとしての在り方を、リノベーション理論に基づき解説いただきました。



■小関邦昭 安全衛生協会会長



■池田建設株式会社 高橋明 取締役



■会計報告 巴水道工務店 本卦照章氏



■安全協力業者表彰（敬称略）
（積極的に安全業務を推進された会員）

- ・株式会社 美装開発
- ・株式会社 糸井電設
- ・有限会社 東真水道工務店



■安全作業所表彰（積極的に、安全、円滑な工事を行った現場。左から）

- ・（仮称）博水社新築工事（八幡涼子）
- ・（仮称）シバ国立ビル新築工事（澤井一幸、鄭知恵）
- ・（仮称）東京外語専門学校新校舎新築工事（讃井隆浩、綿貫孝弘）



■27 年度 新入社員紹介（左から）
終夜雅行（顧問）、新田富士美（管理部）、富田拓巳（工事部）、石川舞依（工事部）、大場大聖（工事部）。



■安全標語作品受賞者の方々

最優秀安全スローガン
目指すのは
日本一の建築屋
事故が
あつては意味がない

■最優秀賞は、年間のスローガンになります



■第 3 部は、講演『知られざる硫黄島戦からの教訓』です。英語も織り交ぜ、渡邊春吉塾長のトークは迫力があります。

協力業者の社長の皆様が集うこの機会にぜひお話を参考にさせていただきたい、という、森村社長の企画です。

若い社員にとっても、新鮮な話題となったことでしょう。

「H邸 新築工事」地鎮祭

2015年1月22日



地鎮祭当日はあいにく雨でしたが滞りなく終了しました。

構造：RC壁構造
規模：地上3階
用途：専用住宅
設計：the design labo
竣工予定：9月末

編集後記

・女性現場監督達が活躍しています。寒さ厳しいこの季節、現場での防寒対策に工夫をこらしているようです。

(株)辰 通信 Vol.179 発行日 2015年2月10日
編集人：松村典子 発行人：森村和男
東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450
E-mail : daihyo@esna.co.jp URL :http://www.esna.co.jp